（様式６－１）

実績概要（ホームページ掲載用）

研究又は活動のテーマ	建物を大切に使うこととは - 名建築と宮崎 -
助成事業者	ひむかヘリテージ機構
代表者	川越祐子

（目的）

現在、多くの建造物が30年、40年で解体されている。建物を大切に使うということはどういうことか、宮崎に現存する築50年を超える代表的な建築を通して考えたい。著名な建築家が設計する建造物も、建てて終わりではない。そこからのメンテナンス、大幅な改築、歴史や価値の発信など、竣工後の関わりの細やかさが重要である。建築の保全活用について講習会や見学会等を通して学ぶ。建築にまつわる思いや歴史・物語を知ることで、地域の宝を掘り起こし、まちづくりに活かすことにもつなげていく。

（概要）

宮崎県には、日本を代表するモダニズムの建築家・坂倉準三が関わった建築が3軒ある。宮崎県総合博物館、宮崎県青島青少年自然の家、宮崎県東京ビルである。宮崎県と坂倉準三とのつながりと、その設計思想について学ぶ講習会と見学会を企画した。

見学会、講習会は令和4年12月3日（土）に実施し、30名が参加した。
建築士や学校教諭、新聞社・テレビ局記者、一般の方の参加もあった。
「公共建築の保存、継承に何が大切なのかをイメージすることができた」「坂倉準三が博物館に託した想いに感動した」「もう記憶が定かでないが、改めて、当初の博物館を見てみたいと思った」「50年、住む人を変え、間取りを変えながら住み継ぐ、室伏さんの住宅のおもしろさを感じた」などの感想があった。

宮崎県総合博物館にて見学会の後、神宮町公民館で講習会、トークセッションを行った。尚、県青島青少年自然の家見学会については5日午前中に講師と代表者で行い、詳細や助言については講習会の中で確認した。

講習会内容
坂倉準三の師ル・コルビュジエ研究者でもある東京理科大学工学部建築学科・山名善之教授「坂倉準三が日本に遺したもの」
元坂倉準三建築研究所所員である建築家・室伏次郎氏「坂倉建築研究所の想い出とわたしの建築」
島根県職員で、県所有のモダニズム建築の活用・発信を続ける山本大輔氏「島根の公共建築　営繕の中で見えてきたこと」

見学会では、建設当初の図面や写真を見ながら、坂倉準三が考えた、神宮の森の自然と一体となった建築について確認した。改修を経て、どの部分が変わったのかについても確認した。

講習会では、坂倉準三がコルビュジエアトリエで学んだことや、その後の作品について（山名氏）、坂倉建築アトリエの自由な空気と坂倉準三が提唱した「人間のための建築」について（室伏氏）、島根県の公共建築で受け継がれてきた改修哲学と、建築を活かした現在の新たな動きについて（山本氏）が語られた。
トークセッションでは、考え抜いた建築家の思想を活かしながら、メンテナンス、改修を行うことで、良質な建築・地域のシンボルを次世代につないでいくことができるということを共有した。